講義科目名称: 土質力学 CV2-A14-30 科目コード: 21520

英文科目名称: Soil Mechanics

開講期間		配当年	単位数	科目必選区分
2年前期		2	2	必修
担当教員			•	
中澤 博志				
添付ファイル				
講義概要	水とその 連の知識 力および)流れ,土の応力 えを身につける. 『斜面安定などの)・土の変形・土の また,実務におい)問題解決をささ;	土の種類, 土の柔らかさの表現といった土の基本的性質から, 土中のの挙動, 圧密・圧縮および土のせん断強さまでの土質力学に必須な一いて多い具体的な問題解決方策の基礎として, 土圧, 浅い基礎の支持える基礎的な力を身につける. ある教員が担当する科目である。
授業計画	2	・講義の(料)の一 管理する」 (AL①) 土の構成 ・長年に ・土の物3	立置づけとして, つである地盤を構 上で必要な, 土・ と状態の表し方 わたる土の生成過 理量(含水比、湿	の位置づけと学ぶ意義 土木工学の基幹分野である4力(構造, 地盤, 水理, 社会インフラ材 構成する土に関する専門科目として, 構造物の計画, 設計, 施工, 維持 地盤に関する基本的な知識を講義する. 過程や粘土鉱物による土要素の形成や特徴的挙動の違いを説明する. 過程を精生な物による土要素の形成や特徴的挙動の違いを説明する. 過程を精生な物による土要素の形成や特徴的挙動の違いを説明する.
	3	・統一士 (AL①) 土の粒度, ・含水比(・コンシ) ・土の柔(生のコンシステ の違いによる粘土 ステンシー試験 (ならびにJGS分類法を理解し,具体的な判別方法を解説する.
	4	・土の最i (AL①)	固め試験法を理解	¥し,土の締固め曲線の描き方について説明する. ♪説明し,実際に値を求め,その解釈について説明する.
	5	・透水係 る.	数を求める試験法	をとダルシーの法則を覚え、それを利用した透水量の計算方法を説明す と理解し、透水量および圧力水頭の計算手法について解説する.
	7	・圧密の。 ・e-logp (AL①) 地中の応 ・地盤の	曲線を描くことが カ 维積状態と地下水	圧密の最終沈下量および圧密時間を計算する. ぶでき、正規圧密状態、過圧密状態の定義について説明する. 《位の分布に基づく有効応力の概念を説明する. なと、ブーシネスクの応力解の使い方など、土中の増加応力を求める方
	8	法を説明 [*] (AL①) 中間試験 ・第7回 ・後半に[する. とその解説 までの講義につい 向けた講義内容を	いての中間試験を実施し、その解説を行う。
	9	・モールの	の破壊規準	コンの破壊規準式を説明する.また,モールの応力円を用い,地盤内の うてみる.
	10	・一面せん る. (AL①)		縮試験および三軸圧縮試験の各試験方法と得られる強度定数を理解す
	11	・土のせん ・室内試験 (AL①)	沙質土のせん断特 ん断時の土の排水 険で原位置と同じ	f性 〈条件,応力−ひずみ関係やダイレイタンシーを理解する. 〉条件を再現する必要性について説明する.
	12	斜面安定 ・斜面の (AL①) 土圧	安定計算手法を概	活説し、円弧すべりによる安全率等の算定について解説する.
				動土圧,受働土圧の概念を説明する. ✓の土圧理論を理解し,擁壁に作用する単純な土圧の求め方を解説す

	14 浅い基礎の支持力 ・基礎の種類とそれらの支持力公式、土の構造物の支持力算定について説明する。 ・直接基礎の支持機構について理解し、極限支持力の求め方を解説する。 (AL①)
	15 期末試験とその解説および講義の総括 ・期末試験を実施し、その解説を行う. ・講義全体を通じ、総括を行う. (AL①、AL④)
授業形態	・板書・パワーポイント・動画併用した解説による講義を行う. ・パワーポイントを用いる際は、資料を配布する. アクティブラーニング:①15回,②0回,③0回,④2回,⑤0回,⑥0回
達成目標	・土木工学の中で、土質力学の役割と意義を理解すること. ・土の基本的性質とその指標を理解し、土を分類できるようになること. ・地盤内の水の流れや地盤に作用している応力の概念、土のせん断特性を理解すること.
評価方法・フィー ドバック	・期末試験 60点以上 ・原則として、レポート・小テスト等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する
評価基準	秀(90点以上),優(89~80点),良(79~70点),可(69~60点),不可(59点以下)
教科書・参考書	【教科書】 書き込み式 はじめての土質力学 藤原覚太著 コロナ社
履修条件	無し
履修上の注意	・講義の中で、土木工学基礎実験1で行う実験試験の解説が含まれていることを意識して、受講すること・ ・地盤工学の内容は極めて多岐にわたる.他の分野(構造、水理、社会インフラ材料)についての関心を持 ち、横断的な思考で講義に臨むこと.
準備学習と課題の 内容	・講義では、問題とその解法事例として適宜提示していく、復習により習得しておくことが望ましい、(毎回、予習復習それぞれ1.5時間程度)
ディプロマポリ シーとの関連割合 (必須)	知識·理解:30%, 思考·判断:30%, 関心·意欲:20%, 態度:10%, 技能·表現:10%
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	